

会 議 録

会議名	令和7年度 第3回 丸亀市総合計画審議会
開催日時	令和8年1月28日(火) 14:15~16:15
開催場所	丸亀市役所 4階特別会議室
出席者	<p>出席委員 吉澤康代、逢坂十美、齊藤栄嗣、福田康知、岩崎正朔、高濱和則、白川真由、相原しのぶ、美濃しおり、高橋勝子、宮武凌司、大西裕子、岡田心羽、和家幸宏</p> <p>欠席委員 高木和代、宮川諒信</p> <p>事務局 市長公室長 栗山佳子 (市長公室政策課) 課長 真鍋裕章、副課長 藤井慶子、主査 大川智</p>
議 題	<p>1. 第三次丸亀市総合計画(案)について</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	<p>ただ今より、令和7年度第3回丸亀市総合計画審議会を開会します。議事に入る前に、本日の資料を確認します。</p> <p>それでは、丸亀市附属機関設置条例第7条に基づき、会長に議長をお願いします。</p>
齊藤会長	<p>それでは、会議を進めさせていただきます。本日の会議ですが、委員総数16名中14名の出席であり、丸亀市附属機関設置条例の規定により会議は有効に成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>本日の議事は、</p> <p>(1) 第三次丸亀市総合計画(案)について</p> <p>(2) その他</p> <p>の2件です。まず、「(1) 第三次丸亀市総合計画(案)について」事務局より説明をお願いします。</p>
大川	<資料に基づき説明>
岩崎委員	<p>鳥取市では、国の助成制度を活用し、有償ボランティアが制度として導入されています。無償ボランティアでは担い手の確保が難しい中、地域を支え、持続可能なまちづくりを進めていくためにも、本計画の中に有償ボランティアの導入や定着といった視点を盛り込むことを検討していただきたいです。</p>
大川	<p>有償ボランティアは、地域課題の解決につながる取組の一つであると認識していますので、計画内に明記できるよう検討します。</p>

高濱副会長	<p>地域によっては、補助金を活用して日当や商品券を支給する例や、地域活動に参加しない場合に負担金を求める例など対応は様々です。有償ボランティアに関する国の予算が各県に配分されているのであれば、丸亀市として一定の考え方を整理し、活用できる仕組みを検討していく必要があると感じています。</p>
和気委員	<p>総合計画アンケート結果では、「暮らし続けたい」と回答した人が8割を超えている一方で、「働く場所の少なさ」といった理由から、地元定着・地元回帰しにくいことが分かります。そのため、早い段階から産業教育に取り組むことで、将来的に地元で就職したいと考えて戻ってくる可能性が高まってくると思います。</p>
高濱副会長	<p>これまで大学生を対象に地元回帰の取組を進めてきましたが、十分な成果が得られなかったことから、より早い段階で地元企業を知ってもらうことが重要だと考えています。そのため、毎年10月の第3月曜日の「丸亀こどもデー」では、こどもたちやそのご家族に地域の企業や団体について知ってもらい、郷土愛を育むことを目的としたイベントを実施しています。こうした取組を積み重ねることで、進学等で一度地元を離れても、就職の際に地元企業を選択肢として思い出してもらうことを目指しています。</p> <p>また、高校生を対象とした取組も継続しており、学生のやりたいことを企業が関わりながら支援することで、地元への愛着を深めることにも繋げています。</p>
齊藤会長	<p>若者の定着は丸亀市、ひいては香川県においても大きな課題として位置づけられるものであり、県内や市内の企業をより早い段階から伝えていく施策が今後さらに必要であると思います。</p>
岩崎委員	<p>地域の高齢化が進み、人手不足が深刻化していますが、若い世代や移住者が地域活動に関わることで、新たな活気が生まれた事例があります。地域への帰属意識が薄れる中で、若い人が参加しやすい仕組みを柔軟に考えていくことが重要だと思います。</p>
大西委員	<p>神輿の担ぎ手不足を補うため、学生に有償で参加してもらったところ、活気が戻った感じがします。草刈りや水路清掃などの作業についても、無償のボランティアだけでは担い手の確保が難しく、一定の対価を支払う仕組みが必要だと感じています。</p>
岡田委員	<p>自身の卒業論文では、就学前教育と小学校教育の連携について研究しており、幼稚園等と小学校の交流や教員間の連携が形式的な実施に留まるなど自治体によって取組の差があると感じています。社会の変化に応じて、交流の内容や方法を見直していく必要があると思います。</p>
福田委員	<p>丸亀市の幼稚園と小学校の連携については、教員を幼稚園に派遣し、その経験を小学校教育に生かすことで、小学校教育にスムーズに移行できるよう努めています。こうした取組も計画に記載できるよう検討していただければと思います。</p>

相原委員	<p>KPIとして市民満足度を重視する中で、計画を市民に知ってもらい、実践され、変化を実感する機会をどうつくっていくかが重要だと感じました。特に、取組が端的に示されているからこそ、その先で自分がどのように関われるのか、より具体的につながる工夫をすることで、市民の関心や参加につながりやすくなると思います。</p> <p>また、コミュニケーションフレームについては、役割が分かりにくい印象を受けたので、親しみを持たせる工夫があればより使いやすくなると感じています。</p>
大川	<p>自分ごととして関わっていくためのステップとしては、「市民ができる協力・参画のかたち」、「関連する個別計画」へとつながる構成としており、より深く知りたい場合には、そうした個別計画を参照してもらうことを想定しています。</p> <p>また、コミュニケーションフレームについては、市民等が親しみを持って活用いただけるよう工夫していきたいと思います。</p>
白川委員	<p>「総合計画の市民とのつながり」の市民像のうち、学生に大学生を含めることで、より幅広い世代の市民像を示せると思います。</p> <p>また、基本方針・基本施策における「目指す未来の姿」について、短期と長期の未来の姿を並列で示していますが、長期を実現するための具体的なステップとして短期が位置づけられていることが分かるよう、関係性（レイヤー）を明確に示した方が理解しやすいと感じました。</p> <p>さらに、「第2章 丸亀の現状と課題」のうち、「社会潮流」という言葉が難しいので平易なものに改めた方が分かりやすいと思います。</p>
大川	<p>大学生を市民像に含められるよう修正します。</p> <p>また、未来の姿の関係性が分かりやすくなるよう見せ方を工夫するとともに、難しい言葉を平易なものに可能な限り修正します。</p>
吉澤委員	<p>「主要な取組」と「市民ができる協力・参画のかたち」が並んで示されていますが、文体や見せ方が似ているため、行政が行う取組と市民が関われる内容の違いが分かりにくいと感じました。「市民のあなたができること」といったメッセージ性が、より伝わる工夫があるとよいと思います。</p> <p>また、将来人口の推計については、どのようにして人口目標が達成されるのかという説明がやや分かりにくく、補足説明があればよいと思います。</p> <p>さらに、計画全体としては多くの取組が示されていますが、限られた予算の中で、どの施策を優先して進めていくのか分かりにくい印象を受けたので、市民の理解が促進されるようメッセージを伝えていく必要があるかと思っています。</p>
大川	<p>市民が参加できる協力・参画の表現については、語尾や書き方など、表現方法について検討したいと考えています。</p> <p>また、将来人口推計については、総合計画に取り組むことが将来人口目標の達成につながるという流れが分かるよう、修正を検討します。</p>

高橋委員	<p>優先順位の考え方については、基本施策の並び順などにより、市として重点的に取り組みたい内容が伝わるよう工夫はしておりますが、毎年度公表していく「重要施策」を中心に分かりやすく示していきたいと思ひます。</p> <p>「基本施策1 子育て支援・少子化対策の推進」において、こどもの声を聞く場や機会を計画において明記していただきたいと思ひます。</p> <p>また、「基本施策2 こどもの教育・保育の充実」の短期のところ、学校給食費の無償化は既に定着しており、表現を改める必要があると感じました。</p> <p>さらに、進行管理においては、「改善」の表記がカタカナになっている点が気になったため、表記の意図が伝わるよう追記していただければと思ひます。</p>
大川	<p>基本施策1の主要な取組の記載内容において、検討させていただくとともに、長期の姿についても、表現を改めます。</p> <p>また、カイゼンの表記については、現状を良くするだけでなく、現状に満足せずさらに高みを目指していく考え方を示すものであるため、その意図が伝わるよう説明を加えたうえで、この表現を用いていきたいと思ひます。</p>
白川委員	<p>基本施策10の「市民ができる協力・参画のかたち」について、ボランティアを「困りごとを抱える人を支える活動」とのみ捉える表現には違和感があります。ボランティアは支援される側だけでなく、参加する側にとっても生きがいややりがいにつながるものであり、地域のつながりをつくる活動でもあると考えています。</p>
大川	<p>表現を修正します。</p>
宮武委員	<p>専門用語や分かりにくい言葉については、注釈や用語解説をまとめたページがあると、市民や教育機関などで活用しやすくなると感じました。計画の最後に簡単な解説ページを設けることで、その場で疑問を解消できると思ひます。</p> <p>また、スポーツ振興と健康づくりに関して、丸亀市としてどのプロスポーツやスポーツ分野を重点的に支援し、地域活性化やスポーツ産業につなげていくのかが分かりにくいと感じました。現在あるスポーツ資源やイベントを生かし、将来を見据えた支援の方向性を示すことで、総合計画としてのメッセージ性がより高まると考えます。</p>
大川	<p>用語の注釈については、計画の後ろにまとめて記載するよりも、各ページ内で完結できるよう修正します。</p> <p>また、プロスポーツについては、今回の意見も踏まえ、今後どのように支援や活性化につなげていくか検討していきたいと考えています。</p>
福田委員	<p>現在、国において中学校の部活動の地域移行が進められており、地域からスポーツを支え、盛り上げていく動きにつながる可能性もあると思ひますので、部活動の地域移行について記載していただければと思ひます。</p>

齊藤会長	<p>スポーツ振興や健康づくりを考えるうえで、丸亀市にとって特に重要なのは「生涯スポーツ」の視点だと考えています。日本では部活動終了後となる18歳を超えるとスポーツをする人が大きく減少する傾向があり、こどもから社会人、高齢期まで、地域で継続してスポーツに親しめる環境づくりが必要だと感じています。</p> <p>また、スポーツ少年団や部活動の地域移行を起点に、地域で人材を育成し、その後も地域でスポーツを楽しめる流れをつくるのが、生涯スポーツの定着につながると考えます。これは健康寿命の延伸にも直結する重要な取組です。文化芸術分野では生涯の視点が示されている一方で、スポーツ分野でその考え方が十分に見えないので、計画の中で明記していただきたいと思います。</p>
逢坂委員	<p>「総合計画とのつながり」における大学生の位置づけについては、高校生のところ「進学・仕事など将来が不安」という項目を「卒業後～」といった表現に修正すれば、高校生と大学生の双方を含められるのではないかと考えます。</p> <p>また、「多様なかたちで暮らす市民」については、市民が自分自身を重ね合わせて読むことを考えると、特定のイメージを想起させるイラストが、かえって対象を限定してしまう可能性もあると感じました。具体的な人物像を示しすぎない方が、読み手にとって理解しやすくなるのではないかと思います。</p>
大川	<p>大学生の位置づけについては、ご意見のとおり高校生と大学生の双方を含められる表現へと修正します。</p> <p>また、「多様なかたちで暮らす市民」については、人物像を特定せず、まとめていきたいと思います。</p>
高濱副会長	<p>今後、外国人市民が増えていくことは避けられない現実であり、「多様な市民」の一部として外国人も含めていく視点が重要だと考えています。企業でも外国人材の受け入れが進んでおり、生活ルールやごみの出し方など、地域で安心して暮らしていくための基本的な支援体制を整えてほしいと思います。</p> <p>また、もう一步踏み込んで、「誰一人取り残さない」という姿勢を計画に明確に示していただきたいです。防災面をはじめ、困っている人を見過ごさず、市民一人ひとりを守るという原則を、計画の中でもしっかり打ち出していきたいです。</p>
美濃委員	<p>市民がこの総合計画を身近に感じていただくためにも、市民に分かりやすく伝えていくことが重要だと考えますが、どのように浸透させていきますか。</p>
大川	<p>総合計画を市民に浸透させていくためには、小手先のプロモーションではなく、まずは自分たちが足を運び、直接説明していくことが重要だと考えています。</p> <p>具体的には、市民講座への組み込みや、商工会議所などを通じた説明、出前講座の実施などを検討しています。加えて、ダイジェスト版を活用しながら、総合計画を広く周知していききたいとも考えています。</p>

齊藤会長	<p>宮川委員の意見を代弁すると、丸亀市は農業に適した地域であるにもかかわらず、農業や特産物に関する記載がやや弱い印象を受けました。若い世代が農業に関わりやすい環境づくりや、地域特性を生かした農業振興、特産物の創出について、総合計画の中でもう一步踏み込んだ記載があってもよいと感じました。</p> <p>また、私の意見としましては、南海トラフ地震発生時を想定すると、最終的には地域コミュニティにおける防災対策が重要と考えています。外部支援がすぐに期待できない状況も踏まえ、コミュニティ単位での防災体制やマニュアル整備を、より重点的に進めるという趣旨を計画に盛り込んでほしいと思います。</p> <p>さらに、丸亀市は歴史や文化が豊かなまちである一方、その魅力を伝える資料や取組が十分とは言えないと感じています。今後は、歴史・文化に関する研究や資料収集を進めるとともに、二宮忠八や塩飽の歴史など、丸亀ならではの価値を掘り下げ、将来の総合計画につながる形で位置づけていってほしいと考えています。</p>
岩崎委員	<p>地域の自主防災活動については、丸亀市内でも備蓄や訓練など一定の取組が進められており、評価できる点があると感じています。一方で、南海トラフ地震が発生した場合には、自衛隊や消防が被害の大きい地域へ派遣され、香川県内では地域自らが支え合う体制が不可欠になると考えています。</p> <p>自主防災組織は数多く存在するものの、活動内容や体制の充実度には差があり、段階的で実効性のある取組が重要です。市民一人ひとりが「自分たちで備える」という意識を持ち、地域防災をより実践的に進めていく必要があります。</p>
齊藤会長	<p>他にご意見やご質問がなければ、「(2) その他」について事務局より説明をお願いします。</p>
大川	<p><今後の日程について説明></p>
齊藤会長	<p>それでは、本日の会議を終了します。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>